

令和6年度病害虫発生情報第1号

令和6年8月7日

千葉県農林総合研究センター長

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の発生状況について

1 発生状況

- (1) 本年は、果樹カメムシ類の越冬成虫が多発生し、5月10日付病害虫発生予察注意報第1号で注意を喚起した。注意報発出以降も果樹カメムシ類の発生は平年より多い状況が続いており、チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップの7月（5半旬まで）の誘殺数は過去10年間と比較して2番目に多かった（図1）。
- (2) 県内5地点で行っているヒノキ球果調査から予想されるカメムシの離脱日は、香取市2地点ではそれぞれ8月下旬と9月上旬、館山市、木更津市では9月上旬、山武市では既に離脱が開始されたと考えられる。平年では9月中旬から離脱が始まるため、本年は果樹園への飛来が早い可能性がある（表1）。
- (3) 7月の巡回調査では、ナシのカメムシによる被害果率が過去10年と比較して最も高く、カンキツでは平年並であった（表2）。

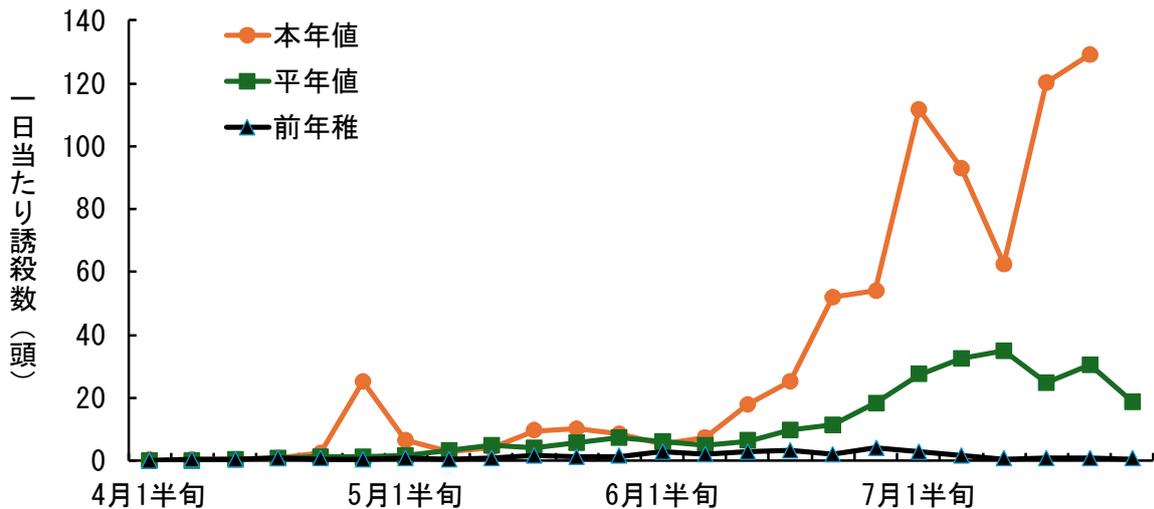


図1 県内9地点におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップ誘殺数の推移

表1 果樹カメムシ類のヒノキ球果離脱予測日（直近5年）

調査地点	離脱予測日				
	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年
香取市小野	9月8日	9月15日	—	9月17日	9月12日
香取市伊地山	8月28日	9月14日	9月10日	9月18日	9月13日
館山市山本	9月7日	9月10日	9月12日	9月12日	9月19日
木更津市矢那	9月9日	9月17日	9月12日	9月18日	9月17日
山武市埴谷	7月25日	9月13日	9月7日	9月17日	8月7日

注1) 調査は7月下旬に実施

注2) 離脱予測日は、福岡県農業総合試験場が開発した予測式により算出した。

予測式： $Y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$ （Y：離脱までの日数、X：口針鞘数）

表2 巡回調査における果実被害状況（7月調査）

調査地区	品目	地点数	被害果率（%）	
			本年値	平年値
千葉	ナシ	7	0.43	0.04
東葛飾	ナシ	6	0.00	0.02
印旛	ナシ	4	0.25	0.05
香取	ナシ	4	1.25	0.18
長生	ナシ	4	0.00	0.15
夷隅	ナシ	4	0.00	0.08
君津	ナシ	5	0.00	0.04
安房	カンキツ	5	0.00	0.04
全県	ナシ	34	0.26	0.07
	カンキツ	5	0.00	0.04

2 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は、各種樹木の果実等を移動しながら吸汁しており、果樹園への飛来状況は地域や園により異なる。活動が活発となる日没後に園内をよく見回り飛来を確認したら直ちに防除する。
- (2) 薬剤を散布する場合は、農薬使用基準に定められた使用時期（収穫前日数）に注意する。
- (3) 薬剤によっては、カブリダニ類や寄生バチ類など、他害虫の天敵に影響を与えるがあるため、不必要な薬剤散布は避ける。特に、ピレスロイド系薬剤では薬剤効果に期待できる一方、天敵類への影響が大きくハダニ類やカイガラムシ類等の増加につながる可能性があるため、最小限の使用にとどめ、連用は避ける。
- (4) 翌月の発生情報については毎月の予報で確認し防除する。翌年の発生量は、南総地域でのチャバナアオカメムシ早期発生予測モデルを用いた予測結果を、9月に発表する病害虫発生予報に載せるので参考にする。

表3 カメムシ類に登録がある主な防除薬剤（令和6年8月1日現在）

品目	I R A C コード※1	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数※2
ナシ	3 A	テルスターフロアブル	3,000～6,000	収穫前日まで/2回以内
		マブリック水和剤 20/EW	2,000	収穫30日前まで/2回以内
		ロディー水和剤	1,000	収穫前日まで/2回以内
	4 A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000	収穫前日まで/3回以内
		スタークル/ アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで/3回以内
1 B + 3 A	パーマチオン水和剤	1,000～2,000	収穫30日前まで/5回以内	
カンキツ	3 A	テルスターフロアブル	3,000～6,000	収穫前日まで/3回以内
	4 A	アドマイヤーフロアブル※3	2,000～5,000	収穫14日前まで/3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000	収穫14日前まで/3回以内
		スタークル/ アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで/3回以内
カキ	3 A	ロディー水和剤	1,500	収穫7日前まで/3回以内
		アグロスリン水和剤	1,000～2,000	収穫前日まで/3回以内
	4 A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000	収穫前日まで/3回以内
		アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫3日まで/3回以内
	1 B + 3 A	パーマチオン水和剤	1,000～2,000	収穫30日前まで/3回以内

※1 I R A Cコードとは、殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤は連用しない。

3 A : ピレスロイド系

4 A : ネオニコチノイド系

1 B + 3 A : 有機リン系+ピレスロイド系

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※3 露地栽培については発芽期から開花期までは除く。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

